

ふくよか

2018秋号

■長崎県病院企業団本部
■平成30年10月発行



目次 CONTENTS

p2..... 企業長より

「悠久の歴史を持つ長崎港を背に」

p3..... ワークショップ2018 in 吉岐

地域医療の未来を担う若者達が集結！

p4..... 特集① 病院企業団議会議員研修

今年は五島中央病院で開催しました。

p5..... 郷診郷創

30年度の各病院の取り組みをご紹介します。

p6..... 特集② 第40回長崎県地域医療研究会

伝統の地域医療研究会の模様をお届けします。

p8..... Break Time

【生まれかわりの話】

vol.
17

悠久の歴史を持つ 長崎港を背に

企業長 米倉 正大

病院企業団が、県庁舎移転に伴い本部署を引越したのは、今年1月です。新しい事務所は、長崎港が見渡せる大波止ビルの7階で、私の部屋からは長崎港が一望できます。

今年7月、川原慶賀作の長崎湾屏風絵がオランダのライデン国立博物館で見られ、先日、長崎新聞に掲載されました。1850年頃の精密な屏風絵では、出島が大きく海に突き出しており、当時の日本において外国に開かれた唯一の窓として、大きな役割を果たしていたことがうかがえます。

しかし、ここ数十年の間に長崎港周辺には、大波止ターミナル、出島ワーフ、水辺の森公園、そして県庁新庁舎などが次々に建設され、当時の屏風絵に見る面影はありません。

私の部屋から港を見ると、左手に130年

ぶりに表門橋をリニューアルした出島、右手に三菱造船所のドック、真ん中手前の波止岸壁には、帆の張られていない観光丸が停泊しているのが見えます。

松ヶ枝岸壁には、日替わりのように大型クルーズ船が入港し、同時に2隻のクルーズ船が入港する日には、1隻は松ヶ枝岸壁にもう1隻は水辺の森公園に接している出島岸壁に停泊しています。奥には長崎港の両岸を結ぶ女神大橋が見え、五島・福江行きのジェットfoilやフェリーのほか、1日2回運航されている軍艦島遊覧船が港を出入りします。

よく晴れた日には、長崎港の海がより青くきらきら光り、南国の港を思わせます。私の部屋から見渡せるのは、ざっとこのような風景です。

この春、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産への登録が決定

しました。五島列島に点在する潜伏キリシタンの遺産が注目されたことで、世界遺産を目当てに観光客が押し寄せ、長崎港を出入りする船はさらに頻回になり、人口減に悩む離島も、にぎやかさを増すことが期待されます。

長崎港は、悠久の長崎の歴史とともに形造られてきました。戦国時代の1571年、今から約450年も前に、ポルトガル船が長崎に入港したという記述があり、ここから国際港としての長崎港の活躍が始まります。

1636年、ポルトガル人の居留地として出島を完成させましたが、すぐにポルトガル人を追い出し、その場所にオランダ人を住ませました。その後、幕末の時代までオランダとの交流は続きます。

日本とヨーロッパの唯一の貿易地であり、また、蘭学をはじめ日本の近代化に必要な

情報の発信地として、出島は重要な役割を果たしてきました。

近代医学の歴史に貴重な足跡を残したシーボルトの来日は、1823年です。翌年1824年には、出島の外に鳴滝塾を開設し、日本各地から集まってきた多くの医者や学者に対して、西洋医学の教育や講義を行いました。シーボルトは、私たち医療人からすると、医師としての日本での活躍をよく知るところではありますが、オランダに帰ってから植物学者として、皆さんよく知っている「アジサイ」などをヨーロッパの人々に紹介しています。

江戸時代の終わりの1863年、グラバーが来日し、南山手にグラバー邸を建て、そこで三菱財閥の岩崎弥太郎と親交を深めました。また、私たちが飲むキリンビール発祥の地として、麒麟麦酒(現・キリンホールディングス)の基礎を築いたといわれています。

これと同じ頃の1867年、坂本龍馬が海援隊を立ち上げ、長崎港を中心に貿易を行いました。倒幕に続いて起こる明治維新の動乱の時期に、外国の鉄砲や大砲などを取引したというのは、よくテレビなどでドラマ化されています。

このような、近代日本にとって重要な役割を果たしてきた悠久の歴史を持つ長崎港を背に、遠い昔に思いを馳せながら仕事をしている日々です。



ワークショップ2018 in 壱岐

8/23(木)から8/25(土)の3日間にわたり、
“ワークショップ2018 in 壱岐”が開催されました。



本研修は、離島の保健医療への認識を深め、意欲向上させることを目的に、昭和53年から開催されており、今年で第41回目となりました。



対象者は将来、県内の離島やへき地に従事する医学修学生等です
※医学修学生・・・離島等の公立医療機関等に勤務する医師を養成するための修学資金を貸与している医学生



病院・福祉施設の見学、地域住民との座談会、講義・講演、討論が行われました。
最終日には、研修を通して感じたことを思い起こしながら、「都市近郊の離島における専門医療と総合医療」をテーマに、ワークショップやグループごとの発表を行いました。

Zoom up!

特集①

病院企業団議会 議員研修

8月20日、五島中央病院において、議員研修が開催されました。

<議員研修とは？>

企業団議員を対象にした研修で、直接、各企業団病院を訪問し、各地域での現況等を知って頂くことを目的としています。

「五島中央病院の役割と現状」について、五島中央病院の村瀬院長から、これまでの取り組みなどが説明されました。

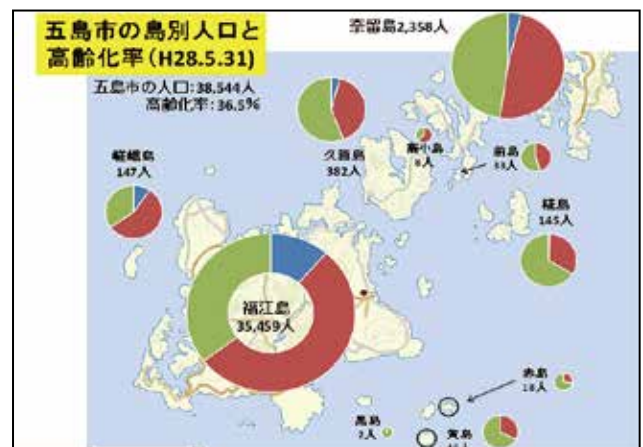
病院概要

- ・長崎県病院企業団に属する公的病院
 - ・五島市における唯一の総合病院
 - ・病床数 304床
(一般180床、包括ケア病床50床、精神60床、結核10床、感染症4床)
 - ・診療科目 (16科)
- | | | |
|------|-------|------------|
| 内科 | 循環器内科 | 消化器内科 |
| 外科 | 整形外科 | リハビリテーション科 |
| 小児科 | 産婦人科 | 精神科 |
| 泌尿器科 | 放射線科 | 耳鼻咽喉科 |
| 眼科 | 神経内科 | 脳神経外科 |
| 皮膚科 | | |

五島中央病院の役割

1. 五島の他の医療機関では果せない高度・専門医療
 - ・がん医療、救急医療
2. 島民に不足する医療
 - ・周産期医療、小児医療、精神科医療、他院への診療応援
3. 行政的医療
 - ・感染症・結核医療、検診、災害時医療、洋上救急
4. チーム医療
 - ・感染予防、糖尿病、褥瘡、摂食嚥下、緩和ケア
5. 教育
 - ・医学生・看護学生教育実習(長崎大学、五島高校他)
 - ・職員・島内医療従事者の教育・研修
(オープンカンファランス、胸部疾患懇話会)
6. 五島市イベントへの医療スタッフ派遣

<五島中央病院の概要等について>



<下五島地域での高齢化について>

-今後について-

議会とは違った勉強会の場として活発な質疑が行われました。

今後は、議員の皆さまとの共通認識を深め、地域医療構想の実現へ向けた取り組みに繋げていく必要があります。

「精神科認定看護師の人数が日本一！！」

Topics!



長崎県精神医療センターが、日本の精神科病院で精神科認定看護師数が最も多い病院となりました。質的にも院内講師は勿論のこと、院外講師として33施設の講師を務めています。リソースナース(専門・認定看護師)各自が看護部の広告塔として一端を担っている結果として、精神医療センターへの就職希望者が増加中です。

「郷診郷創」の一環として平成28年にリソースナースによる「こころの相談窓口」を開設しました。外来患者及びその家族、施設職員等に対する相談に応じ「その人らしさ」を維持しながら地域で安心して生活していけるような援助を行っています。結果、患者さんを支援する家族、施設職員等の精神的な支えになっており、また、リソースナース自身も相談業務を通して、自己研鑽、他職種や福祉関係者等との連携に繋ぐことが出来ています。



<長崎県精神医療センター リソースナースの皆さん>

郷診郷創

◎ 30年度の各病院の取り組みの一部をご紹介します！

○ クリニカルパスの作成状況等

- ・毎月委員会を開催し、パスの作成・見直し・承認を行っている。
(上五島病院)
- ・DPC導入に伴い、効率的な診療を目的としたパスの導入及び洗い出しに取り組む。現在、月に1回委員会を開催しており、また入院患者に対するパスの使用状況は22%となっている。(対馬病院)

○ 行政との連携事業等

- ・ハローワーク等を通じ、障害者雇用数の増加を図る。(島原病院)
- ・地域住民に信頼される診療所づくりの一環として、行政との協議会を定期的に行い、情報共有をしている。(奈留医療センター)
- ・地域の障害者を積極的に採用するほか、下五島障害者就業生活支援センターと協力し、就業前の実習訓練を実施している。(富江病院)
- ・認知症疾患医療センターとしての役割を周知するため、行政と連携を行っている。具体的には、壱岐市包括支援センター主催の市民公開講座で地域住民向けにもの忘れ外来の周知を実施したほか、現在は認知症疾患医療連携協議会を開催すべく調整を進めている。
(壱岐病院)
- ・壱岐保健所、壱岐市保健課等に協力を依頼し、インフルエンザ流行期に島内の港や空港に感染防止啓発ポスターを掲示する。
(壱岐病院)

啓発用ポスターも各関係機関に掲示しております！→



Zoom up!

特集②

第40回 長崎県地域医療研究会

今年も長崎ブリックホールにて長崎県地域医療研究会が10月13日・14日に渡って開催されました。

40回目となる地域医療研究会、今年のテーマは“未来を切り拓くために 若人の力を！！” 約200名の関係者が参加し、5年ぶりとなる全体での交流会も開催されました。

1日目

↓ 壱岐病院 向原院長 開会挨拶



開会挨拶



基調講演



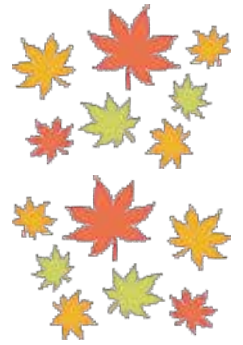
↑ 受付の様子

↑ 企業長の基調講演
テーマは「縮小の時代を生き抜くための知恵と勇気」



一般演題

一般演題は例年より多い29演題



→フロアからの質問も多くみられました



特別講演

↓ 1日目のシンポジウム
企業団外の先生も交えて語り合いました



→特別講演は禁教期のキリシタン研究会世話人、柿森和年先生による講演
テーマは「世界遺産登録に向けての軌跡と新たなスタート」
タイムリーな話題と先生のユーモア溢れるトークで盛り上がりました

シンポジウム①「新たに始まった専門医制度について」

交流会の様子もお届けします！





閉会挨拶



↑次期会長 五島中央病院 村瀬院長の閉会挨拶



一般演題

2日目の一般演題も素晴らしい発表と活発な議論の連続でした



◆研究会の発表集は後日ホームページに掲載予定です。

◆次回は平成31年10月12日・13日開催予定です。

シンポジウム②「郷診郷創への取り組み」



シンポジウム② 各病院が郷診郷創を地域定着させるために行っている取り組みを発表しました

本部職員のつづやき⑤



本部職員が日常のあれこれをつづやくコーナーです。



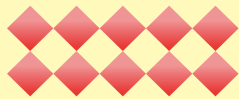
東京オリンピック・パラリンピック開幕まで2年を切りました。開閉会式や競技観戦が今からとても楽しみです。また、長崎県では長崎にゆかりがある国のオリンピック、パラリンピックの各代表の事前キャンプの誘致を進めていて、先日ポルトガルの競泳代表が長崎市で実施することを決定しました。聖火リレーも開催年の5月に行われることが決まっています。今後、様々なイベントによって長崎でも機運が高まっていくのではないのでしょうか。

さて、2020年のオリンピックは7月に開催されますが、前回の東京オリンピックは10月10日に開催され、その2年後に「体育の日」として祝日になり、「スポーツの秋」とも呼ばれるようになりました。ちなみに2020年からは「体育の日」は「スポーツの日」と名称が変わります。

この「スポーツの秋」以外にも、「～の秋」という言葉はたくさんあります。「読書の秋」、「芸術の秋」、「行楽の秋」、恐ろしい「食欲の秋」などなど。暑さも一段落した秋は、外で活動するにも、家で何かに取り組むにも、いろんなことに挑戦しやすい季節だからかもしれませんね。

今年の秋は何か新しいことを始めて、スキルアップ、プライベートの充実を図り、仕事と生活の調和に取り組んでいきたいと思っています。

経営管理班 松井 真一



Break Time



『生まれかわりの話』

私が好きなお笑い芸人（すでに引退）の方が、ある番組の中で言っていた事が頭に残っています。それは次のような内容でした。

人は死んだらどうなるのか、人は死んだらまた人に生まれかわるという話がある。生きている間に悪い事をしなければ、死んだ後もまた人に生まれかわる事が出来る。そして、生きていううちにどれだけいい事をしたか、また、生まれかわった回数などによって、人間の出来に差が出る。要するに何回も人に生まれかわった人は、いい大学に行ったり、偉い学者になったりするという事。

時々電車やバスなどでマナーの良くない人や他人に迷惑をかけている事にまったく気付かない人と関わる事があって、ものすごく嫌な気分になる事があるが、その時はこう考えるといいよと。そういう人は初めて人間になった（生まれかわった）人なので、他人に迷惑をかけるという事が理解出来ていないという事。だから、そういう人に運悪く関わった時には、まだ人間1回目だからしょうがないという事で、笑って許す事が出来るようになれば、今度は自分が人として徳を積む事ができ、次にまた人に生まれかわる事が出来るかもしれない。人としてそういう努力をし続ける事が大切ではないかという事。

実際の現場で、そういう場面に遭遇した時に、このような話を思い出して感情を抑える事が常に出来ているかは自信はありません。感情を抑えられなくて、ついつい文句一つも言ったりして、後でそういう自分の事が嫌になったりする事も多々あります。また、逆に自分の言動で他人に不快な思いをさせている事も多いのではないかと時々反省もしています。年は取ったけど、人としての出来はまだまだですね。今後も、人への生まれかわりを信じて、精進したいと思います。

（文：副企業長 安永 留隆）

編集後記

祝!! 4周年☆彡

みなさん、こんにちは。早いもので『ふくよか』は今号で創刊4周年となりました。 ☆♪♪♪☆
今回初めて『ふくよか』の編集に携わる事になり、アタフタしながらも何とかやり遂げる事ができました。

広報誌の名前の所以でもある「ふくよかな会話」や、みなさんからのご意見・ご感想など盛沢山的话题をぜひぜひ下記まで、ご連絡くださいませ。お待ちしております。!(^^)!

(ふくよか編集担当：M)

ふくよか

表紙のはなし 長崎くんち

『長崎くんち』は長崎の氏神「諏訪神社」の秋季大祭。今年の踊町の一つでもある、杵島町のコッコデショは担ぎ手の声に始まり、声で終わると言われている。

平成30年10月発行
編集・発行/長崎県病院企業団本部
〒850-0035 長崎市元船町17-1 長崎県大波止ビル7階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>



長崎県病院企業団

検索